

自走式コンベア

Tracked Conveyor

表1 ラインナップ

	型式	最大処理量 (t/h)	機体質量 (kg)	最大ストックパイル容量 (m ³)
自走式コンベア	TC-65	400	12,750	1,845
	TC-80	400	16,000	2,135
	TC-100	600	20,500	5,390
自走式フィーダ付コンベア	TF-75H	500	23,500	1,735
	TF-75L ^{*1}	500	23,500	1,735
自走式旋回コンベア	TR-75	500	20,350	10,040 ^{*2}

※1 投入口の高さが低く、油圧ショベルからの原石投入が可能です。

※2 135° 旋回時

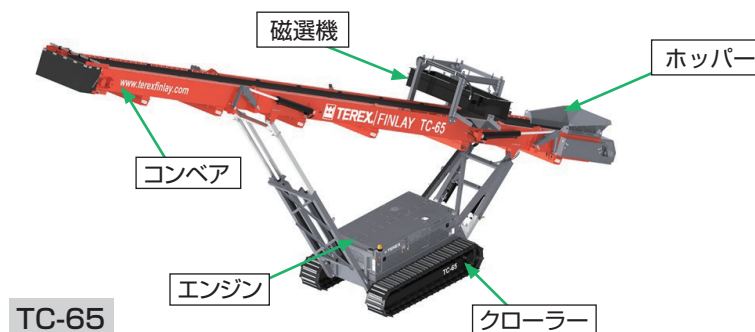


図1 自走式コンベア

1. はじめに

当社は、2013年10月より世界的な自走式クラッシュャメーカーのTEREX FINLAY社（英国）の日本総代理店となり、同社の自走式クラッシュャやスクリーンなどを取扱っています。

昨今、東京オリンピックの開催やリニア中央新幹線の新設計画などの影響によって、中期的に骨材需要が増加すると言われています。一方で、骨材製造プラントは公共事業の削減により整備は十分に実施されていません。老朽化した生産設備を用いた骨材生産量の増産は、困難と言われています。また、大規模なプラントの更新や新設はイニシャルコストが大きいために、中期的な骨材需要に対しては、現実的ではないと言われています。そこで当社は、海外での骨材製造プラントで使用されている、TEREX FINLAY社の自走式の製品に注目しました。据付式の機械に比べて設置性に優れ、イニシャルコストが低いという特徴があります。

本稿では2018年から新たに取扱いを開始した、「自走式コンベア」についてご紹介いたします。

2. 自走式コンベアの構造

自走するためのクローラーは本体シャーシの下部に、エンジン・製品を扱うコンベアやホッパーなどは本体シャーシの上部に取付けられています。また、本体の輸送時には、油圧シリンダによって、輸送用40ftコンテナに収まるサイズに折りたたむことが可能です。

3. ラインナップ (表1)

自走式コンベアのラインナップは自走式コンベア（3機種）、自走式フィーダ付コンベア（2機種）、自走式旋回コンベア（1機種）となります。

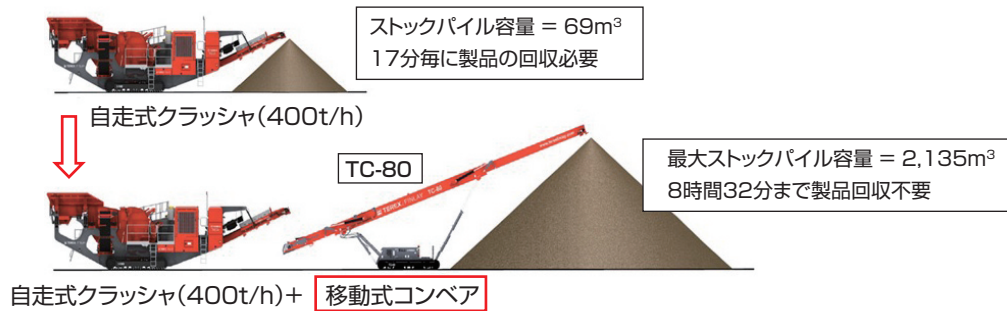


図2 スtockパイル容量の比較



図3 自走式フィーダ付コンベア



図4 自走式旋回コンベア

3.1 自走式コンベア (図1)

ストックパイル容量（高積みした製品の容量）を増加させることで、製品の回収頻度の低減が可能です。（図2）これにより、製品を回収するホイールローダの運転に掛かる燃費改善・人件費の削減が期待できます。また、自走式クラッシャや自走式スクリーンなどと連結して使用することが可能です。連結稼動することにより、自走式プラントレイアウトの自由度が拡がり、プラントレイアウトを効率化することが可能です。

3.2 自走式フィーダ付コンベア (図3)

大型ホッパーを搭載することにより、ホイールローダ・油圧ショベルからの大量投入が可能です。また、フィーダを搭載することにより定量切出しが可能とな

ります。さまざまな投入方式に対応可能なように、投入口の形状が異なる型式があります。

3.3 自走式旋回コンベア (図4)

旋回角度が135°あり、他の自走式コンベアに比べて、ストックパイル容量を増加させることが可能です。また、自動旋回プログラムによる運転も可能です。

4. おわりに

今後も社会環境やニーズの変化に対応できるように、多彩な骨材製造プラント向けの製品をご提供していきます。

お問合せ先：素形材エンジニアリング事業部 営業企画部 営業企画課
TEL：03-3450-8590 FAX：03-3450-8533